

「私家版」 中高6年間の英語カリキュラム（改訂版）

— 6年間を通じた流れとその実践 —

筑波大学附属駒場中・高等学校 英語科

八宮 孝夫

「私家版」中高6年間の英語カリキュラム（改訂版）

— 6年間を通じた流れとその実践 —

筑波大学附属駒場中・高等学校 英語科

八宮 孝夫

要約

筆者は、2010年までの6年間、中1から高3まで通して英語を担当し、「私家版」中高6年間の英語カリキュラム（以後、「旧私家版」と称す）として、本校の論集『駒場論集50集』にまとめた。それから2017年3月までの6年間、再度中高6年間英語を担当し、「旧私家版」を改訂しつつ、実践を重ねてきた。本稿では、その「改訂版」を提示しつつ、以前のものを踏襲している点、異なる点、改善した点など具体的に述べたいと思う。

キーワード：オーラル・イントロダクション、スパイラル方式のアプローチ、知的刺激のある教材

1 はじめに

「旧私家版」で、それぞれの学年での教材の選定の目安・目的などは述べたが、「なぜ、「私家版」カリキュラムなのか」という根本となる理由については触れなかったのが、今回はまずそれについて述べる。次に、「旧私家版」と「改訂版」で変わらない部分を略述し、変わった部分については詳述する。続いて、具体的実践例を1つ述べ、最後に今後の改善点について触れる。

2 なぜ「私家版」カリキュラムか？

2.1 入門期の導入

本校は中高一貫校であり、中学1学年3クラス、高校1学年4クラス（高校より41名入学）と比較的小規模のため、1学年の英語授業（LLや「英語表現」の授業は別の教師が担当）を1人の教師が担当する。基本的に担当が持ち上がりのため、中高各3年間、希望すれば中高6年間、同一の教師が英語を担当することになる。教科書で扱う文法項目に沿いながらも、必ずしも教科書の内容にこだわらず、自主的な内容を盛り込む自由度を持っている。「私家版」カリキュラムを作るにあたって、この環境は大きい。

しかし、もっと重要なのは英語を使用しながら、学習者が無理のない形で英語を身に着けてゆく、英語の提示順の問題である。この点は「旧私家版」でも指摘・説明したので要点だけ述べると、教科書が1学期はI,

you, we などの1・2人称に限定して展開し、2学期になって初めて3人称を扱い、動詞の形としては1・2人称の現在形→3人称の現在形→現在進行形→過去形、という展開であるのに対して、「私家版」では1学期のうちに3人称まで全部出し、動詞の形としては現在進行形→過去進行形→過去形→will→現在形、という展開になっている。これは、1994年度版NHK『基礎英語1』の執筆者の一人である手島(1995)のカリキュラムに基づいており、そのベースにあるのはGDM(Graded Direct Method)の考え方である。GDMでは、母語を介さずに意味が分かるような状況設定がされており、既知の文法事項との対比によって未知のものを理解させるような段階付け(grading)がなされている(詳しくは升川(1975)参照)。このやり方に基づく限り、教科書の文法項目を「私家版」風に再編成せざるを得ないのである。

2.2 扱う教材の点から

現在はグローバル社会であり、扱う題材も「異文化コミュニケーション」や世界的な問題である「環境問題」、「平和・人権問題」などが多い。登場人物も欧米ばかりでなくインド・アフリカ・東南アジアなど幅広い。そのこと自体、問題ではないし筆者もそれに反論するつもりはない。ただ、中2の前半ぐらいの限られた語彙の中で、環境問題を扱うとすれば内容的に浅いものにならざるを得ない。例えば *New Crown English Series 2* (2011)のL.3 For Our Futureの中には以下の

The Private Version of the Curriculum of English Teaching from 7th through 12th Grade (Revised Edition)

英文がある：

When we walk, our feet hit the floor. The energy from this action can become electricity. In this way, our everyday actions can make a clean world.

In this way で結んで、最後の文のような結論を出すには、あまりに論理が単純というか短絡的という印象はぬぐえないであろう。

一方で、教科書にはストーリー性のある物語が少ない。「私家版」では、*The Tale of Peter Rabbit*, *The Adventures of Tom Sawyer*, *Sherlock Holmes* など、ストーリーの面白さでどんどん読み進めてしまうような題材を扱うよう心掛けた。とりわけ、*The Tale of Peter Rabbit* は、イラストが豊富で絵を提示しながら話を再現する Show and Tell が可能な点でも優れている。

「偉人伝」的なものも少ないのではないかな。確かに「キング牧師」「マザーテレサ」など人権・平和に関係するものはあるが科学者などはまず出てこない。「私家版」では中3でメンデルについて扱っている。これは中3の理科で「遺伝」を学習するので「メンデルの法則」が既習事項となる時期を狙って、導入している。理科だけでなく、英語でもこの人物を扱うことで、より親しみがわくだろうし、中3の英語を用いて「メンデルの法則」を説明することも可能で、知的刺激を与える教材となりうると思う。

2.3 最近の傾向

以上、2つの点から「私家版」を採用する理由を述べてきたが、最近では教科書も変化がみられる。現行の *New Crown English Series 1*(2015)では、he/sheの導入が L.2 で行われている。また、*New Crown English Series 2*(2015)では、L.2に Peter Rabbit が登場し、「絵カードを使って物語のあらすじを話そう」という活動も見られる。まさに、「私家版」に近づいており、こういう傾向は歓迎である。

3 「旧私家版」と「改訂版」

新旧2つの「私家版」には6年の歳月の違いがある。変わらない部分、変わった部分を述べる。

3.1 基本的に変わらない部分

3.1.1 オーラル・イントロダクションの手法で

筆者は、通常「オーラル・イントロダクション」によって授業を進めている。つまり初めは英文を見せず

に、黒板にイラストを張ったり、略画を書いたりしながら、生徒との英語のやり取りを通じて、その日の新教材を導入するのである。その際には、絵を指しながら視線は生徒に向けて言うこと、生徒から向かって左側の黒板を使用するときは黒板よりも左側に体を開いて立つこと（教卓に近いほうにいと、右側の生徒に見えにくい）、右側の黒板を使う場合は、黒板より右に立つように体を開くこと、など立ち位置も重要である。これは後で高校生になって本格的にプレゼンテーション活動を行うときも非常に重要になるので、中1の時から注意を促すようにしている。「私家版」の中1・1学期の「発表活動」も2学期の「発表活動」もイラストを英語で説明する、というのは、単に英語を覚えて発表するのではなく、イラストを指したり聴衆に視線を向けたりという行為を連動させながら、イラストをいわばキューにして英語を発する、という訓練を意図しているためである。

「旧私家版」では時計や大きな米国紙幣などを用いていたが、今回はNHK『基礎英語1』（2011）のキャラクター「太郎とドク」を用いた：基本は同じである。これは中2の3学期に行った *The House That Jack Built* でも変わらない。「The malt', 'ate,' 'killed,' 'worried,' 'a crumpled horn' と言ったキーワードを書く以外は、それに該当する絵を貼るだけで、それをキューにして1つずつ積み上げていくと、覚えようと意識しなくても絵とリズムを思い出せば言えるようになる。最後は7, 8行の文になるが、むしろ文字を目で追うとつかえてしまうことがある。筆者は以前高校生に対して文を読む形でこの *nursery rhyme* を導入して失敗したことがある。今回、高3に対して絵とキーワードだけで行ったところ、非常に反応が良く、まず音声と絵で導入することの有効性を改めて感じた。

3.1.2 スパイラル方式の学習

筆者は、英語以外のいくつかの外国語をラジオの語学番組を通じて学んできたが、新しい文法項目は1度にずっと頭に入るものではなく、6か月クールで繰り返す講座を経験しているうちに、浸み込んでくるようなものだと実感している。学校の授業でも同じようなことが必要と考え、少し難しいので一般には後に回されるような文法項目を、むしろ早めに出して、何度も違う場面で経験させることで定着させようと試みている。例えば、不定詞は、中2の2学期に扱う教科書が多いが、筆者の場合は、自主教材 *The Story of John Manjiro* によって、不定詞を1度扱い、夏休みの課題

に *The Adventures of Tom Sawyer* を読ませ、また 2 学期になって内容復習しながら、不定詞を扱うのである。関係代名詞の場合も、中 2 の段階で上述の *The House That Jack Built* を扱い、口調で体に覚えさせてしまい、Mujina で who, which も導入して、中 3 の Martin Luther King Jr. で再復習するのである。

3.2 6 年間で変わった部分

3.2.1 小学校英語の導入

筆者が担当した 65 期生が入学した 2011 年は、正式に「小学 5 年生から英語が必修化」された年である。「旧私家版」の対象であった 59 期生は 2005 年の入学で、その当時でも 93.6% の小学校で「総合的な学習の時間」に英語活動が行われていた（「小学校英語活動調査 2005」）とのことだが、年間 35 時間実施していた小学校は 3.6% だったという。65 期生は必修化直前の期なので当然のことながら、59 期よりも小学校で英語活動を体験していた割合ははるかに高い。

『駒場論集 51 集』（2011）に筆者は以下のように書いている：文科省から配布された『英語ノート』を使用したという回答も多く、早速、その内容を調べてみると＜曜日、月名、天気、数字、時刻、教科名、スポーツ、食べ物＞などは絵と音声によってかなり導入されていた。文法についても、1 人称と 2 人称に限って言えば、I want to ... など中 2 の文法項目まで含んでいた。ただし、あくまで絵と音声による導入であって、文字としての定着はこれからのことであった。

確かに曜日名などよく知っているので、出来ると思いきや文字で書くのは別物、という印象が強い。あくまでも必修化前の生徒だったので、基本的に「改訂版」のような流れで行ったが、実は一般動詞の現在形にもすでに口頭では親しんでいたわけである。2020 年には「小学 5 年生から英語の教科化」になるのであるから、中 1 は「入門期の英語」とはもはや言えなくなるであろう。

以上のような状況の変化を鑑み、「改訂版」では中 1 でも読む英語の分量を増やした。具体的には中 1 から中 2 にかけての春休みに *20000 Leagues under the Sea* (Penguin Readers Level 1) を課題として課した。決して分量的に多いものではないが、be going to... や I want to... などの表現も出てくるので、以前であれば課題とすることを控えたと思うが、小学校で口頭としては I want to... にもなじんでいるということで、あえて課してみた。同名の DVD (Walt Disney Legend Collection) も視聴させた。結末が課題テキストと異な

るので比較させることができたのも有益であった（詳細は「英語授業における DVD の活用」『駒場論集 53 集』所収）。

3.2.2 YouTube など visual aids の充実化

この 6 年で YouTube などの動画が以前よりもはるかに充実してきた印象である。筆者は山中伸弥教授がノーベル賞受賞した際、自主教材として Professor Yamanaka: from failure to glory を作成したが、これは YouTube などのインタビュー映像を参考にして可能になったものである。中 3 の 3 学期に行った Malala's Speech at the United Nations もしかりである。山中教授については、現行の *New Crown English Series 3* (2015) にも For Self-study 2 として「教科書以外の英語に触れよう」と題して、ノーベル財団の公式サイトで山中教授のノーベル賞受賞記念講演を見てみましょう、というページがある。また、マララについても、*New Crown English Series 2* (2015) の Project 1 「有名人を紹介しよう」で扱われているので、筆者が「私家版」でこれらの人物を扱ったのはなかなか良い選択だったといえる。高校の教材では、さらに YouTube などの活用が増える。例えば、高 2 の 1 学期に扱った What Is Uniquely Human? は、この科の著者である松沢教授の英語による講義 (Lecture (TED x Youth@Kyoto) を YouTube で視聴することができ、教科書本文のチンパンジーの実験などすべて動画で見ることができる。ただ、安易に動画だけ見せて理解させようとしてはだめで、教室ではオーラル・イントロダクションで、そこまでの流れを導入しておき、ポイントを押さえて動画を見せることが重要である。また、動画は豊富にあるが、目的に応じて適したものを選ぶ必要がある。まず、学術的に信頼できるものか、こちらが意図したキーワードを踏まえているか、朗読の仕方が良いか、長さは適切か（3 分程度でも書き起こすと A4 判 1~2 枚になる。集中力から見て 3 分程度が上限である）などが選ぶ基準となる（高校における YouTube の活用例については、『駒場論集』55 集(2015)を参照のこと）。

3.2.3 「旧私家版」の反省を踏まえて

以前と異なる点を 2 つ見てきたが、なんといっても最大の違いは、今回は「旧私家版」での反省点を踏まえて実践を行ってきたという点である。

例えば、中 3 の 3 学期に Romeo and Juliet を扱ったが、「旧私家版」では開隆堂 *New Easiest Series* 中

3 前期用を夏課題として使用した。しかし、これは難易度的に生徒に物足りないようであった。あとで、DVD を視聴していくつか有名な場面を原文で扱ったとき、今度は課題英文とのギャップがあり過ぎて、あまり生徒は乗らず、一方的にこちらが説明するような事態になってしまった。結局は、あまり暗唱や発表活動に結び付けられなかったのである。今回は、課題図書に *Romeo and Juliet* (MacMillan Readers Level 4) を選んだ。これは大事な場面でいくつかの原文のセリフが入っており、チャレンジングではあるが、あとで DVD を視聴させたときのギャップは以前より少なかった。話の枕の Prologue (十四行詩になっている) の一部を暗唱させたり、グループで有名な場面を演じさせたり、具体的な活動を行うこともできた。やはり、これは前の反省を踏まえた点大きい。

また、高 1 の 3 学期に扱った *Super-frog Saves Tokyo* は、その前年、筆者が 65 期の中学 3 年生を教えているときに、NHK ラジオで半年かけて放送したものがもとになっており、その話の面白さにひかれ、高校 1 年で必ず教材化することを心に決めており、いわば 1 年越しで計画したものであった。冬課題として出したのは、12 月の期末考査の終わりであったが、終業式の清掃時に、「この話はファンタジーのようなものだったら終盤かなりエグイですね」という感想を言った生徒が何人かいた。冬休みに入る前に英語の課題が話題にされることは、それまでまづなかったもので、この話は生徒も引き込まれたのだとすぐに感じたものである。(なお、この実践について詳しくは「「かえるくん」と『源氏物語』(『駒場論集 55 集』に所収)を参照のこと)

4 実践例～高校を中心に

これまで、主に中学の実践を中心にして、「旧私家版」と「改訂版」の背景を踏まえて比較をしてきた。ここからは、高校 3 年間の英語カリキュラムに触れて、実践例を述べたい。なお、これは、第 59 回全附属高等学校部会研究大会、外国語分会・分科会 1 (2017 年 10 月 27 日・学芸大学附属国際中等学校) で発表したものに基いている。

4.1 高校 3 年間のカリキュラムの概要

「旧私家版」と同様に、高校での目標は高 3 の最後にキング牧師の“I Have a Dream” speech の全文を扱い、一部を暗唱することで高校英語のまとめとするこ

とである。この点は変わらなかった。この演説は、アメリカ独立宣言の一部引用や、リンカンへの言及もあり、十分な理解のためには事前に背景知識を与えておく必要がある。そのため、前回と同様、高 1 で Thomas Jefferson and the Declaration of Independence、高 2 で Abraham Lincoln and his Gettysburg Address という教材を扱い、高 3 のキングの演説と関連付けた。

4.1.1 高校 3 年間も、なぜ「私家版」か

高校の英語教科書にも優れた教材がたくさんあるが、しかし依然として欠けている部分がある。時代にマッチした題材はあるが、裏返せば時代を超えた古典というべきものがないのである。例えば、ギリシャ神話やシェイクスピア作品 (かつては、『ジュリアス・シーザー』中で、アントニーが聴衆に向かって行う “Lend me your ears” が掲載された教科書もあった)。また、10 ページを超えるような長めの短編もない。日本の小説の英訳作品などもない。「私家版」では、そういうものを入れるようにした。ただ、バランスも大切で、高校期に語彙増強の機会に、あまり偏った分野だけでは望ましくない。大まかに「文学・社会・科学」の 3 分野をカバーするよう心掛けた。以下、具体的に述べる。

4.1.2 「ギリシャ神話」の良さ

「ギリシャ神話」は優れた教材である。比較的平易に書かれたリトールドものから、児童文学者による翻案、原典からの英訳、韻文形式のもの、などレベルが豊富で、また、内容もバージョンによって微妙に異なる。筆者の場合は、『ギリシャ神話』(James Kirkup: 成美堂)をベースとしているが、*Mythology: Timeless Tales of Gods and Heroes* (by Edith Hamilton) (欧米で最も定評あり)、*Classic Myths in English Literature and in Art* (by Charles Gayley)などで補い、*Classical Mythology* (by William Hansen) というガイドブックで確認しながら、教材化している。絵画のモチーフになっている場面も多いので、黒板にその場面を貼って、オーラル・イントロダクションすることも可能である。注意点としては、登場人物にギリシャ神話系の名前とローマ神話系の名前があり (ゼウス(Zeus)とユピテル(Jupiter))、これに英語読み (ジュピター) も加わるから、混乱しやすい。ギリシャ系・ローマ系、どちらかに統一して教えるべきである。筆者は、太陽系の惑星名などローマ神話系の名前を取っているため、関連させてローマ神話系の名前に統一している。これは、「ギリシャ神話」というものの、欧米

ではオヴィディウスがラテン語で著した『変身物語』(Metamorphoses)を通じて人口に膾炙しているためである。1つの作品でも、内容にバリエーションがあるので、復習の場合には別のバージョンを読ませて、違いを指摘させることもできる。筆者は、英訳版 *Ovid's Metamorphoses* (translated by Rolfe Humphries) を一部用いて、ペルセウスと海竜との戦いの場面を韻文でも扱った。このように、まことに奥の深い教材である。抽象的な言い方になるが、クラスで「ギリシャ神話」空間を生徒と共有するような気持ちで展開するとよい。

4.1.3 詩、言葉遊び、英訳作品など

教科書で詩が扱われるのは、表紙の後の見開きページだったり、付録だったりすることが多い。言葉遊びも、仮にあったとしても巻末扱いである。筆者は詩を扱うのに今まで *Poetry for You* (by C. Day Lewis) の抜粋を用いてきた。しかし、今回は嬉しい驚きだが、*Unicorn English Communication 2* に L.12 Reading a Poem という課があり、20世紀の優れた英国詩人である Philip Larkin の *At Grass* という詩を解説付きで扱っている(この解説が本文になっている)。筆者は迷わず、教科書のこの課を採用した。ここから、同じく詩の出てくる *Winnie the Pooh* と関連付けた。この作品は、子供向けと思われているが、言葉遊びも秀逸で侮れない(詳しくは『駒場論集 49 集』(2009)の実践を参照)。また、英訳作品については、高1で *Super-frog Saves Tokyo* を、高2で *The Tale of Genji* を扱ったが、元の日本語が英語ではどのように表現されているかについて生徒は予想以上に関心を示したので、大いに教材化の価値があると思われる(具体的実践は、前述の『駒場論集 55 集』(2015))。

4.1.4 学期ごとに「文学・社会・科学」の3分野を

これに関しては、「旧私家版」のほうが、この原則を守っていたと思う。今回の「改訂版」では、やはり、文系で扱いたいものが増え、結果的に高1・高2とも3学期は理系関係の教材を扱っていない。また、理系で扱ったのは教科書の教材である。「旧私家版」では Rachel Carson や Charles Darwin など自作教材にも挑戦していたのだが。ただ、高1の *Why Are You Sleepy?* では、*Dreamland* という別資料も補充し、高2の *Global Water Issues* では *The Last Drop* (Mike Gonzales et al. PlutoPress) で全体のフレームワークを作って臨んだ。時間は限られているので、バラン

スを考慮して、なるべく様々なジャンルの英文を読ませたい。

4.2 授業の進め方の基本(1時間の指導手順)

これは、基本的に、「旧私家版」を踏襲している。

1) 前時の復習(Review): 中学では、絵など示しながら、前時の内容を再現したりしたが、高校は分量も多いので、筆者が作成した要約(summary)の穴埋めをすることで復習とした。これを行うことで、前時までの流れを忘れていた生徒も思い出すことができ、その後のオーラル・イントロダクションの前に全員が同じ土俵(common ground)に立つことを意図している。

2) 本時の内容の口頭導入(Oral Introduction): 新教材の背景知識や新出語などを生徒とのやりとりを通じて英語で導入する。中学では、話の相当の部分を導入するが、高校では分量も多く、また独力で読む部分を残しておくことも必要なため、背景知識を中心に導入して、それを元に各自で読んでわかるところは、あえて導入しない。

3) 黙読し内容に関する質問に答える(Silent Reading for Finding Answers): 情報を求めて各自読む段階。中学では、内容に関するキーワードを空欄にしておき、それを埋めるという活動の場合もある。

4) 内容の説明(Explanation): 質問に対する答えを確認しながら、難しい部分を解説する。これは日本語で行う。2)のオーラル・イントロダクションと合わせると完全な理解につながるように行う。

5) まとめの音読(Reading for Consolidation): 意味内容を理解したうえで、音読を行う。単に文字を見て音声化するのでなく、書き手の意図を音声で表現するように読む、ということである。例えば、通常、弱形で読まれる代名詞や be 動詞も、対比などでは強形で読まれる場合がある。

筆者は、この指導手順を中学から続けているが、高校から入学した生徒には、このやり方に慣れてもらう必要があるので、今回は高校1年には少し平易と思われる、NHK ラジオ *Enjoy Simple English* の教材を2篇使用し、オーラル・イントロダクションに慣れると同時に中学英語の復習をするという2つの目標を立てて高校の英語授業をスタートさせた。

このやり方を地道に続けるメリットは何だろうか。まず音声で導入することは、H.E.パーマーの言う「聴覚像(acoustic image)」の育成につながる。オーラル・イントロダクションの原型はパーマーの *Free Oral Assimilation* にあると考えられる。彼は Palmer

(1925)で以下のように述べている：

The teacher talks to the pupils; talks continuously, illustrating each sentence by appropriate gestures and actions. The pupils listen and watch, and by dint of listening and watching, they come to understand the general meaning of what is said by the teacher. ... As the time goes on, the understanding will become more precise, and less diffused, and the attention will be more focused on the individual words and intimate word-groups.

パーマーはさらに、この理解は年が若いうちは無意識で、年が上になるにつれて意識的に行うようになる、としている。こうして、音声による概要把握の習慣をつけることができる。また、**3.1.1**でも触れたが、黒板の絵を指しながらの導入は、一種のプレゼンのモデルにもなっており、発表の際にも役立つ。オーラル・イントロダクションがうまくいけば、次の黙読の際にも、音は出していなくても頭の中では音声が響いており、イントロダクションの聴覚像が浮かび上がるわけである。

筆者は、生徒が高3になって入試問題を読解する際にも「頭の中では音声が響いて、文章のリズム・呼吸を感じながら読み進めなければ、真に理解したことにはならないよ」と折に触れて言うようにしている。その基礎は、まさに地道なオーラル・イントロダクションによって養われるのである。

4.3 リンカンのゲティスバーグ演説の実践

高3の最後の目標がキング牧師の“I Have a Dream”の一部暗唱であれば、その実践の紹介をすればよいのであるが、それは既に「旧私家版」で相当に詳しく行ってしまった(『駒場論集 50 集』(2010))。そこで、今回は高2の3学期に行ったリンカンの実践について述べる。

4.3.1. まずは背景知識から

いきなり、リンカンについて扱うのではなく、やはり南北戦争が起こった背景を導入した。世界史の授業ではないので、専門的なことには踏み入れない。南北戦争以前のアメリカの北部、南部にはどんな州があったかを地図で示しながら生徒の雑学をもとに挙げていく、という単純なものだ。州名が出ないときは頭文字などヒントを与えると、ほとんどの州名は判明する。以前は、『アメリカの小学生が学ぶ歴史教科書』(The

Japan Times)の該当箇所を配布して読ませたが、今回はYouTubeの動画を利用した。Causes of the American Civil Warなど、画像があるので単なるリスニングよりもずっとわかりやすい。もちろん、事前に北軍はthe Union、南軍はthe Confederateと呼ぶことなどキーワードは与え、リスニングポイントも指示した。また、解答確認後はトランスクリプトも与え、文字としても確認できるようにした(資料1を参照)。

途中で入試期間があり授業が中断してしまうため、その後は南北戦争が舞台のアンブローズ・ビアスの短編The Coup de Graceを扱った。ビアス自身、志願して軍隊に加わり青春時代の4年間で戦火の中で過ごした経験があり、この短編にもその経験が十二分に発揮されている。描写が細部にわたって凝っており、戦争の悲惨さが多少なりとも感じられるのではないと思う。

4.3.2. リンカンの生涯を扱う

入試期間後に、リンカンの生涯を南北戦争と並行して扱う。『アメリカを築いた人々』(People who Made Our Country Great)(北星堂)を使用。平易だが、アメリカで使用されており信頼できる。今回は復習の際にAbraham Lincoln (by James A. McPherson)の一部を使用した。これは簡潔に書かれてはいるが、学術的なもので、特に、リンカンが南北戦争中に発布した「奴隷解放宣言」(Emancipation Proclamation)については、人道的な面もあったかもしれないが多分に政治的決断の部分があり、そこは専門家のしっかりとした視点を押さえておきたいと思ったのである。以下の4回に分けて、展開した。

- 1) 幼年期から弁護士になるまで
- 2) 政治家に転身、ダグラスとの討論で有名に
- 3) 大統領として南北戦争に当たる
- 4) 奴隷解放宣言から内戦勝利、暗殺まで

それぞれの回はオーラル・イントロダクションで導入し進めた。復習ではMcPhersonの文章で補足し、まとめとして、Abraham Lincoln: Life and Death (WatchMojo.com)というYouTubeの動画を見せた。全体の流れが良くわかり、また4回の英文で扱ったキーワード、表現が随所に出てきて有効であった。このように、平常はオーラル・イントロダクションで限られた分量を扱う一方で、最後は全体を通して動画でまとめをする、というのは1つの良い方法だと思われる。

4.3.3. ゲティスバーグ演説：じっくり、丁寧に

上記のように、リンカンの生涯を扱った後で、「ゲティスバーグ演説」にもどり、『アメリカ精神の英語』（筑摩書房）中の注釈や *Lincoln at Gettysburg* (by Garry Wills) を参考に、資料2のプリントを作成し、単に字句通りの解釈だけでなく、全体の構造、修辭的な面にも注意させた。なお、このプリントでは、あとで音読し暗唱にも利用できるように、意味を成すフレーズごとに改行をしてある。こうしたほうが意味も取りやすい。また、意味的に関連する部分をまとめて、詩でいえば連 (stanza) のように分けて提示した。本文の右ページに示した注釈や設問によって、解釈の助けとした。それぞれの「連」について、簡単にポイントを示す：

第1連: Four score and seven years ago, で始まり、いわゆる建国の父たちが、自由と平等の精神にささげられた a new nation をもたらしたことを述べる。‘past’ ‘birth’のイメージがある。

第2連: Now we are engaged ... で始まり、今現在、内戦中であること、この国を救おうと戦い命を落とした戦士たちにこの地をささげに集うたこと、を述べる。‘present’ ‘death’のイメージ。

第3連: But in a larger sense, で始まり、既に戦士によってこの地は聖地化されたので、我々には厳密には、そうすることができないことを述べる。

第4連: The world will little note, で始まり、将来、人々は戦士がなしたことは覚えていても、我々がここでいうことは覚えていないであろう、と述べる。3, 4連を通じて ‘past’ ‘present’ ‘future’ にわたるイメージ。

第5連: It is for us the living, で始まり、では、残された我々がなすべきことは何か、について述べている。すなわちそれは、死んだ者の未完に終わった大義を引き継ぎ、無駄死にさせずに、自由の再生の下、人民の、人民による、人民のための行う政治がこの世から滅びぬ決意をすること、と結ぶ。ここでも、‘past’ ‘present’ ‘future’ が絡み合い、‘rebirth’のイメージが押し出される。

ゲティスバーグ演説とキング牧師の “I Have a Dream” との大きな違いは何だろうか。キング牧師が、多数の地名など固有名詞に言及し、聴衆と感情を共有しているのに対して、リンカンはこの演説で一切の固有名詞を出していないことである。むしろ、‘a new nation’ ‘any nation’ のように、アメリカと特定化しないで、一般論として述べているところに特色、普遍性

がある。

談話構造的に見ると、語彙表現的にも各連同士が非常に緊密に関係しあっていることがわかる。例えば、第1連で ‘a new nation conceived in liberty, and dedicated ...’ が第2連では、‘that nation’, ‘any nation so conceived and so dedicated’ と相互関連するようになっており、第2連で、‘those who here gave their lives’ が第3連では ‘the brave men, living and dead, who struggled here’ となって、相互関連がなされている。絶妙なのは、同じ reference であっても、例えば、‘here’の位置が微妙に違い、これが単なる繰り返しの単調さを避けている。

同じことが、第5連の初めの2文についても言える：

1) It is for us the living, rather, to be dedicated here...

2) It is rather for us to be here dedicated ...

1)と2)は実質同じ内容を述べながら、‘rather’ ‘here’の位置が微妙に異なるのである。実際に発音してみるとわかるが、もし、同じ位置にあった場合、単なる単調な繰り返しで、面白みがない。ところが、配置が異なるために、強調される部分も異なり、勢いのついた良いリズムになる。これは構文も同じのため、「構造的並行性 (structural parallelism)」と呼ばれ (Steven Pinker (2014:123))、理解や記憶を容易にする。最後の that で結ばれた部分も同じ構造と言えるだろう。

Garry Wills (1992:148) はリンカンを称して次のように述べている：

Lincoln’s speech at Gettysburg worked several revolutions, beginning with one in literary style. ... Lincoln’s remarks anticipated the shift to vernacular rhythms that Mark Twain would complete twenty years later. Hemingway claimed that all modern American novels are the offspring of Huckleberry Finn. It is no greater exaggeration to say that all modern political prose descends from the Gettysburg Address.

英語の教師がことばの教師であるとすれば（そうであると信じるのだが）、英語という言語の1つの見事な手本という点でも、知的刺激のある教材という点でも高校2年生の終わりに、この「ゲティスバーグ演説」を生徒とともに味わい、暗唱することは大いに意味のあることだと思われる。

なお、YouTube には、この演説を様々な形で朗読しているの、それを活用すると効果的である。例：

・ A. Lincoln Gettysburg speech (Jeff Daniels)

- ・ A. Lincoln Gettysburg Address from the movie “Saving Lincoln”
- ・ A. Lincoln – The Gettysburg Address (mini. Bio) (スクリプトを資料 3 としてあげる)

また、筆者は今年度、高 3 に対して 1 学期に「米国独立宣言」と「ゲティスバーグ演説」を導入し、2 学期にキングの“I Have a Dream” speech を行うという実践をした（3 年越しではなくて、2 学期間で）。これについては本論集（『駒場論集 57 集』）を参照。

5 おわりに

この 6 年間の「私家版」英語カリキュラムを見てきた。改善された部分もあるが、筆者の授業ではペア・ワークなど生徒同士が英語で話す、という機会が少ない。ましてや、「アクティブ・ラーニング」の要素はほとんどないであろう。ただ、毎学期末の英語による暗唱や発表活動（パフォーマンス・テスト）はお互い見ること大いに刺激を受ける機会で、お互いのうんちくから学ぶことは多いと思われる。斎藤(2016)も「暗唱」や「素読」のような日本の伝統的な学習法の優れた点は認めており、そこから完全に乗り換えるのではなく「アクティブ・ラーニング」の良い部分と組み合わせることで効果を上げることの重要性を説いている。

この 6 年で、また状況が変化した部分もある。例えば、2018 年度からは移行措置として小学校 3 年度から「外国語活動」が始まり、小学 5 年生では「必修教科」となる（正式には 2020 年から）。筆者が中 1 で留意していた「入門期の英語」は存在しなくなり、むしろ、小学校英語との連携や、小学校英語についていけなかった生徒の「再入門」が問題となろう。

高 3 の出口の方では、2020 年度から現行の「センター試験」から「大学入学共通テスト(仮称)」に移行する(移行措置期間あり)。これまで、「読む」「書く」「聞く」の 3 技能は試験されたが、今度は「話す」も試験されるという。本校も、ペーパー試験以外に英語の口頭発表も評価に入れており、「話す」能力を試験することは、原則的には反対ではない。しかし、クラスレベルならばともかく、全国レベルで公正を期しながら「話す」能力を図るにはどうしたらよいか、の議論は十分にされることなく、業者に丸投げという形で導入されることは強い違和感を覚える。阿部(2017)で主張されているように、模試なども行っている業者が、委託されることが問題であるし、口頭テストが AI を利用しての形式に流れかねない点も危惧するところである(く

だんの業者では、そのためのタブレット PC を無料で貸し出すという。業者にとっては、データがそのまま手に入るのであるから、これ以上おいしいことはない)。そもそも、ある能力が水準に達したかどうかを見る英検や TOEIC のようなテストが、入試選抜に用いられること自体がおかしなことである。

教師と生徒が同じ教室にいながら、お互いが英語で素朴なやり取りをするのではなく、皆タブレットに向かって、英語の話し方訓練をするとすれば、これほど皮肉なことはないであろう。

Garry Wills(1992: 153)はリンカンについて次のようにも述べている：

The effort shows that Lincoln, like Mark Twain, like many aspiring authors, hoped to become a paid lecturer. But the changes he made in the text show, even more clearly, what Lincoln considered the supreme inventions of mankind – language and its modes of dissemination (writing and printing). In that age of a dawning technology, he thought the principal mark of human ingenuity was still the ancient “trick” of verbal communication.

真の verbal communication とは何か、もう 1 度考えてみるべき時だと思われる。

【参考文献】（「私家版」一覧に掲載していないもの）

1. 阿部公彦(2017)『史上最悪の英語政策』（ひつじ書房）
2. 八宮孝夫(2009)『筑波大学附属駒場論集 49 集』P130
3. 八宮孝夫(2010)『筑波大学附属駒場論集 50 集』P163
4. 八宮孝夫(2011)『筑波大学附属駒場論集 51 集』P66
5. 八宮孝夫(2013)『筑波大学附属駒場論集 53 集』P159
6. 八宮孝夫(2015)『筑波大学附属駒場論集 55 集』P181
7. 八宮孝夫(2017)『筑波大学附属駒場論集 57 集』
8. 升川潔(1975)「リチャーズの意味論と GDM」『言語理論の生かし方』（開隆堂出版）
9. Palmer, H. E. (1925) *English Through Actions* (開拓社)
10. Pinker, Steven (2014) *The Sense of Style*
11. 斎藤孝(2016)『新しい学力』（岩波書店）
12. 手島良(1995)「私案・入門期のカリキュラム」『私家版 英語教育ジャーナル』
13. Wills, Garry (1992) *Lincoln at Gettysburg*, Touchstone

☆ Abraham Lincoln and his Gettysburg Address の実践

資料 1 背景知識の復習 (視聴覚教材の活用)

65 期高 2 英語 3 学期 1 -4

1/13/2016

Listening: Causes of the American Civil War

Review: Fill in the blanks

What caused the Civil War

What caused the American Civil War? That's a 1(complicated) question and the one that many people still argue and disagree about today. After the American Revolution, the regions of the new country grew, but in different ways. Although there were still lots of farms in the North, it became an increasingly 2(industrialized) society, where many people lived in cities with factories.

Although there were some industries in the South, it remained mostly 3(agricultural), with few people over a third of whom were enslaved. Northern states had gradually 4(abolished), or gotten rid of, slavery while it remained 5(legal) in the South.

In the 1850s, the big question was what to do about all the land in the West when it was settled and carved up into new states. Northerners wanted 6(territories) in the West admitted as free states while southerners wanted them to become slave states. In 1854, a new political party called the 7(Republican) didn't want slavery in the western territories.

In 1860, their candidate, Abraham Lincoln, was elected President of the United States. Many white southerners were upset by Lincoln's election because they believed they had a 8(right) to take their slaves to the West if they moved there. They also feared that, as the number of free states grew, 9(Congress) would vote to abolish slavery all together.

Some southerners began to claim their states had a right to 10(secede), or break away, from the United States, which was also called the Union. They wanted to become a new country. That's exactly what happened in December, 1860, when South Carolina became the first state to secede. Six other southern states followed. And in February 1861, they formed the 11(Confederate) States of America. At first, Virginia voted to remain in the Union. It wasn't until South Carolina attacked a Union fort off its coast called Fort Sumter that war actually began.

Now Virginia was forced to decide which side it would fight with. And after voting a second time, it chose to join the Confederacy. Even after 12(secession), fifty counties in the western Virginia refused to leave the Union and, in 1863, it became the state of West Virginia. How do you think a war in Virginia would affect your community?

資料2 Gettysburg Address の読み取りプリント

65 期高2 英語 3 学期 1 6 -2
The Gettysburg Address(修正版)

2/22/2016

Four score and seven years ago
our fathers brought forth on this continent a new nation,
conceived in liberty, and dedicated to the proposition
that all men are created equal.

Now we are engaged in a great civil war,
testing whether that nation,
or any nation so conceived and so dedicated, can long endure.
We are met on a great battle-field of that war.
We have come to dedicate a portion of that field,
as a final resting place for those who here gave their lives
that that nation might live.
It is altogether fitting and proper
that we should do this.

But, in a larger sense,
we cannot dedicate—we cannot consecrate—we cannot hallow—this ground.
The brave men, living and dead, who struggled here, have consecrated it,
far above our poor power to add or detract.

The world will little note, nor long remember, what we say here,
but it can never forget what they did here.

It is for us the living,
rather, to be dedicated here to the unfinished work
which they who fought here have thus far so nobly advanced.
It is rather for us
to be here dedicated to the great task remaining before us—
that from these honored dead we take increased devotion
to that cause for which they gave the last full measure of devotion—
that we here highly resolve
that these dead shall not have died in vain—
that this nation, under God, shall have a new birth of freedom—
and that government of the people, by the people, for the people,
shall not perish from the earth.

*score= 何年前で、何があった年か？ Cf. Five score years ago, (King 牧師)

*our fathers: the Founding Fathers とも言う。The American Constitution を起草したメンバー。代表的なのは？

*bring forth=produce, give birth to ; この目的語は？

*conceive=form an idea of, think of <元は「おなかに～を抱く」→

*dedicate: (特定の目的のために) 全面的に差し出す、捧げる

*proposition: a statement to express an opinion, belief 信条

*"We hold these () to be self-evident, that all men are created equal,
that they are endowed by their () with certain unalienable (),
that among these are (), () and the pursuit of ()."

*be engaged in =busy, occupied <(あることで) 時間を拘束される

*civil war=war between groups of citizens of the same country

*, testing whether~: ~かどうかを試しながら

Q1 that nation とはこの国？

*any nation so conceived and so dedicated とは？

*endure=continue to exist, last

*We are met: ここに相い会している (be 動詞を使った古い形の完了形)

*portion =part

Q2 those who gave their lives とは誰のこと？ (これ以降もさまざまな表現で示す)

*that that nation might live: (so) that ~might... と考える

*fitting and proper: とともに right for the purpose のこと

*in a larger sense の sense の意味は？

*consecrate: dedicate, hallow とともに「神に捧げる」(特別な儀式など行って聖なるものとして宣言すること) <con+ sacre(聖なる) →sacred

Q3 なぜ、we cannot consecrate なのか？

*far above our poor power to add or to detract 我々の微力では追加や削除(=修正)など及びもつかぬほど (見事に)

*little note: ほとんど注目しない (目的語は？)

*It is for us ... to be dedicated ... It is what is necessary[important] と考える。

Q4 the unfinished work とは？ もう一つ、同様の表現はどれか？

*they who fought here: 11 行目と同じ ; thus far=until now

*those honored dead=those honored people who are dead を縮めたもの

*take: 引き継ぐ (from ~to ... に着目すること) *devotion: 献身、情熱

*cause=a goal, idea that you support or work for, for example in politics 大義

*highly resolve: 謹んで誓う (highly=solemnly は古い用法)

*in vain=uselessly, unsuccessfully

Q5 a new birth of freedom とは？ *perish=come to an end

Q6 残された我々にできることは何だといっているのか？

資料3 まとめのリスニング教材 (視聴覚教材の活用)

65 期高2 英語 3 学期 1 5・2

3/02/2016

Abraham Lincoln: The Gettysburg Address

Listening (script) Fill in the blanks:

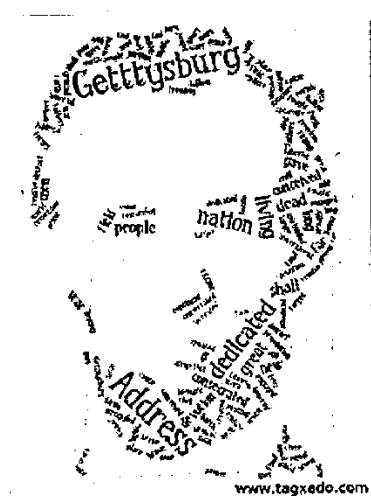
Throughout 1863, the war began 1(turning) the North's way. At Gettysburg, Pennsylvania, in three days of fighting, that left 40,000 dead and wounded, Robert E. Lee was given his worst 2(defeat) so far. News of the Union victory reached Lincoln on July 4, the same day that Ulysses S. Grant took the vital city of Vicksburg, Mississippi.

Lincoln was impressed that the 3(twin) victories had come on the anniversary of the Declaration of Independence, because he said the rebels were trying to overthrow the 4(principle) that all men were created equal. This, he said, is a glorious theme for a speech. And that speech would come a few months later at Gettysburg itself.

A war cemetery was being dedicated there, and Lincoln was invited to make a few appropriate remarks. At the ceremony in November, the president listened for two hours as the designated orator, Edward Everett, 5(recalled) the Gettysburg battle. People were expecting another long speech when Lincoln rose, but he sat down again just two minutes later before photographers could 6(capture) him speaking. He'd needed only 10 sentences to distill the 7(essence) of the Union cause and why the North must keep fighting.

"Four score and seven years ago our fathers brought forth on this continent a new nation, conceived in liberty, and dedicated to the proposition that all men are created equal. (中略) ...and that government of the people, by the people, for the people, shall not perish from the earth."

As he sat down, Lincoln is alleged to have said "that speech won't scour," an uncomplimentary farming term. But the other speaker, Edward Everett told him, "I wish I had come as close to the central 8(meaning) of the occasion in two hours as you did in two minutes." And *The Chicago Tribune* accurately 9(predicted) that the speech will live among the annals of man.



補足資料４：「私家版」中高６年間の教材・文法事項一覧（65期）

☆中学３年間に扱った教材・文法項目

中１・１学期

基本的には『NHK ラジオ基礎英語１』（1994年度版・2011年度版）の課に基づく。

ウォームアップ：日本語に入った英語(外来語)を引き合いに出して、英語音との比較

1)milk / bed / bus / box / jeans / spoon / skirt / grape / boat / pie / door / chair / car など

2)coffee / lemon / orange / sandwich / soccer / tennis / racket / volleyball guitar など

B, HB, H, F / S, M, L / CD, FM, AM / WC / PTA など(大文字の導入として)

3)HOW: Good morning, class. How are you? -- Fine, thank you. And how are you?

mm, cm, m / dl, l / a, ha / g, kg, t / (小文字の導入として)

以下、扱ったキーセンテンスを記す(まず、音声で導入。文字で書くのは徐々に)

4)MY / YOUR ? YES / NO: Your pen? – Yes, my pen. Thank you. – Welcome.

5)I AM / YOU ARE / HERE / THERE / IS など: My pen is here. My notebook is there.

6)THIS / THAT: This is the moon. That is the Earth. And... this is your new spaceship.

7)NOT / OR / WHAT: Is that a tiger? No, it isn't. What is it, then? It's a cheetah.

8)初の TT : This is Mr. Steele. – Hello. Nice to meet you. / Numbers 1- 12

天気・気候の言い方・曜日の言い方: How is the weather today? / What is the day today?

9)WHERE / WE 出身地など: I'm from New Zealand. My favorite food is soba. / 13-20

10)WHO / HE / SHE / OUR : Who is this? It's Miss Fujiwara. She's Nonoko's teacher. / ～
100

11)AN / A: This is Dracula's eye. That is an eye.

12)THE: This is a letter. This is a letter, too. The letter in my right hand is "R".

13)(TT) WHEN / 月名・序数など Today is Wednesday, May the twenty-fourth.

14)THESE / THOSE / ARE: These are erasers. Those are books.

15)THEY / WHOSE / HIS / HER / THEIR: Are there your bags, May? - No, they are
June's bags.

16)(TT) 教科名・気温など What is your favorite subject? / What is the temperature?

18)まとめ 1: This is Taro. He is from Kobe. What is his hobby? His hobby is surfing.

19)まとめ 2: This is Jonathan. He is an English teacher. That is Janica. She is an
English teacher, too. They are from the United States. Their English program is fun.

20)(TT) 時間表現: This is a clock. These are hands. This is an hour hand. It's short.

21)ON / IN など前置詞: Where is the butterfly? - It's on the desk.

22)時間表現 2: What time is it in Sydney? - It's eight in the morning.

23)(TT) 電話の表現: Hello. This is Roy. Is this Ken?

24)HAS: This is a clock. It has a face. This is the face of the clock.

One year has 365 days. One day has twenty-four hours. One hour has sixty minutes.

25)HAVE: Mr. Tanabe has short hair. Jonathan has short hair too.

They have short hair. / I have a pen in my hand. I have an old dictionary in my bag.

26)現在進行形: Touch your head. He's touching his head. - Yes, I'm touching my head.

発表活動：４コマのイラスト（Taro と Doc のもの）を英語で説明する。

夏課題：『基礎英語１』８月号の放送を毎日聞き、ノートにまとめる。

付録の「パワーアップ問題集」をやる。

スキット・コンテストのプラス・ワン・ダイアログを考えて作ってみる。

中 1・2 学期

- 1) 1 学期の復習 1: Who is this? It's a mermaid. She is usually in the sea, but today she is on land – with Taro. They are good friends.
 - 2) 1 学期の復習 2 (TT): Look! The mermaid is sick in bed. Maybe she's out of water too long. Thanks to Doc, she's all right now. Look! She has a harp in her hand.
 - 3) IS/AM/ARE ~ING 現在進行形: The mermaid is good at the harp. She is playing it now and Taro and Doc are listening. They are very happy.
 - 4) 1 日のある特定の時間の出来事: It is 7:45 now. Tom is eating breakfast.
 - 5) (TT) 部活動など(on the phone) Where are you now? And what are you doing now?
 - 6) WAS/WERE 過去形 One year ago, I was an elementary school student.
 - 7) (TT) WAS/WERE ~ING 過去進行形: About two months ago, Kazu and Kohei were in Thailand. They were staying there with some students from Thailand and Poland.
 - 8) (つづき) HAD: The students were staying on a farm with a lot of cows. So they had fun activities too. This girl was milking a cow and Kazu was making ice cream.
 - 9) (TT) (つづき): In the evening, they were preparing for the final presentations.
 - 10) 気温など(復習): It was cool yesterday. What was the high yesterday?
 - 11) (TT) CAN: Sailing (*New Crown 1*, Songs) → 歌によって、can の頭出しをしておく。
 - 12) DID + V 過去形: This is Kawabata Yasunari. He wrote *Snow Country*.
 - 14) (TT) What did Mr. Steele do last Sunday? He did some exercises.
 - 13) THEM: J.K. Rowling wrote only six fantasies, but all of them are best-sellers.
 - 14) Van Gogh painted *Sunflowers*. When did he paint it? He painted it in 1888.
 - 15) Marie Curie discovered radium in 1898.
- まとまった文章を扱い、過去形に習熟 (*The Tale of Peter Rabbit* を書き換えたもの)
- 16) (TT) This is Beatrix Potter. She wrote *The Tale of Peter Rabbit*. When did she write it? She wrote it in 1902. She also drew pictures for the story.
 - 17) Peter ran straight away to Mr. McGregor's garden.
 - 18) He walked around the garden and suddenly met Mr. McGregor. Mr. McGregor ran after him.
 - 19) (TT) COULD: Peter rushed all over the garden and ran into a gooseberry net. He couldn't move.
 - 20) Mr. McGregor was looking for Peter. Peter was hiding in the can.
 - 21) Peter got home to the big fir tree. He was very tired and fell down.

発表活動: 好きな作家やその他の芸術家が何をいつしたか、を英語で発表する。

期末考査では、*Peter Rabbit* のイラストを基にして、話の再現をする問題を出题。

中 1・3 学期

- 1) 過去形復習: What did you do during the winter vacation?
- 2) (TT) What did Mr. Steele do during the winter vacation?
- 3) WILL / WON'T: Yesterday was Sunday. Today is Monday. Tomorrow will be Tuesday.

- 4) 星座占い What is your star sign?
- 5) (TT) DOES + V 現在形 1: He got up at six yesterday. He will probably get up at six tomorrow too. He gets up at six every day.
- 6) Do + V: 現在形 2 Mr. Suzuki and Mr. Machida teach math.
- 7) カードを書こう(休み中の出来事を書く): 様々な表現の拡充
*enjoy + 名詞(～ing)、go on a trip to～ play a game、 relax、 be sick in bed
- 8) (TT) 日常生活、頻度の表現: How many lessons do they have in a day? They have seven lessons. What club are you in? How many times do you practice in a week?
接続詞 WHEN: When Mr. Steele was a student, he was a volunteer worker in the school library.
- 9) CAN / CAN'T: Chinese and Japanese (*New Crown* 1, L 7)
Kumi studies Chinese. So she can speak Chinese a little.
- 10) This is a hippopotamus. "Hippo" means "horse" and "potamus" means "river."
- 11) (TT) Where did the word "map" come from? The word "map" came from *mappa mundi*.
They are Latin words. *Mappa* means "cloth" and *mundi* means "of the world."
- 12) THERE IS / THERE ARE 曜日名の由来: How many days are there in a week?
- 13) (TT) 名前の由来 What is your son's name? My son's name is "Kai." It means "ocean" in Japanese and "food" in Maori.
- 14) THERE WAS / THERE WERE 月名の由来 December is the twelfth month of the year but it means 'the tenth month'. In ancient Rome, there were only ten months in a year, and March was the first month.
(2 学期に行った Peter Rabbit の続編 *The Tale of Benjamin Bunny* を中学・高校入試の自主学習期間に、補充読み物として与えた。DVD 版 (ポニーキャニオン) を視聴)
- 発表活動**: 自分の名前の由来を英語で説明する(現在形・過去形)
- 春課題**: *20000 Leagues under the Sea* (by Jules Verne, Penguin Readers Level 1 Head words 300) を復習に課題として与えた。

中学 2 年生以降に扱った教材・文法事項一覧

中 2・1 学期

1 *20000 Leagues under the Sea* (中 1 英語春課題の復習)

学習目標: 中学 1 年の英語の総復習及び中 2 での新項目の頭出し。

主な文法: be going to ～、want to ～

*One day this whale is going to kill people.

*I wanted to see this interesting animal.

(DVD 版 *20000 Leagues under the Sea* (Walt Disney Legend Collection) を視聴)

TT: New Zealand

学習目標: ALT の出身国の紹介を兼ねて、比較級・最上級の導入をする。

主な文法: 形容詞・副詞の比較級、最上級

*New Zealand is smaller than Japan.

*Mt. Cook is the highest mountain in New Zealand.

*Rugby is more popular than baseball.

*Rugby is the most popular sport in New Zealand.

*Ostriches can run faster than horses.

(自分の好きなテレビ番組などをお互いに伝えあう活動)

2 A Priest in a Mask (*Sunshine English 2*, Program 9)

学習目標：比較級・最上級の復習をし、新項目の導入をする。

主な文法：without ～ing、decide to ～など（～ing 形・不定詞）

→同時に出すことによって、～ing を取る動詞、to～を取る動詞の違いも考える。

*The priest turned him out of the church without listening to him.

*Sergio decided to become a priest and help poor children.

*Teaching children was hard for him, but earning enough money for them was harder than that.

TT: The National Flag of New Zealand

学習目標：国旗を話題にして、新項目の導入をする。

主な文法：be+過去分詞（受動態）

*This is the national flag of New Zealand. What is this group of stars?

It is called “the Southern Cross.”

*It can be seen high up in the sky in New Zealand.

3 The Story of John Manjiro (自主教材)

学習目標：英語文化に最初に接した日本人の一人について学び、これまで頭出しして来た不定詞の用法に習熟する。

主な文法：受動態の復習。不定詞の様々な用法を導入。

*This is Nakahama Manjiro. He was usually called “John” Manjiro.

*Manjiro decided to go with the captain.

*He went to California to earn money.

*They were the first samurai to visit America.

*Manjiro was really happy to see the captain.

*He showed us how to read English words in *katakana*.

(発展学習として、イラストを見ながら、話の再現をする。)

発表活動：TT の時間内に、上記のような「好きな番組」や「イラストの説明」を行った。

夏課題： *The Adventures of Tom Sawyer* (Macmillan Readers, Level 2 (600 words))

中 2・2 学期

4 Uluru (*New Crown 2*, L.6) (教育実習生が担当)

学習目標：実習生がオーストラリアで体験したことを生徒と共有する。また、Uluru に上ることについて、意見を言う。

主な文法：show +○+～、look [feel] +形容詞

*I'll show you some pictures.

*This is a boomerang. Oh it looks beautiful.

TT: Which season do you like best? And why?

学習目標：賛成・反対などの表現を学ぶ。

*I agree with ～、I don't agree with～、I see your point, but ～

*In my opinion, ～、First～、Second～、Last～、so ～

(3人の意見を聞き取り、どの人に賛成か、答える活動)

5 *The Adventures of Tom Sawyer* (夏課題の復習)

学習目標：DVD (Tom and Huck) を視聴し、本文との内容の違いなどに注目させる。

主な文法：不定詞の復習

(テキストとDVD版で、どちらの結末が気に入ったか、その理由も含めて英語で意見を書かせる)

TT: About the sports festival

学習目標：試合で勝つ・負ける、優勝するなどの表現を学ぶ。

*win a game, defeat [beat] the opponent team, lose to ~

*take part in ~、cheer [root] for ~

(体育祭での自分の参加した種目、結果などについて英語で説明する活動)

6 Professor Yamanaka: from failure to glory (自主教材)

学習目標：iPS細胞でノーベル賞を受賞した山中教授のインタビューを聞き、彼のプレゼンテーションのやり方など学ぶ。

主な文法：have [has] +過去分詞 (現在完了形) の頭出し

*Professor Yamanaka has recently won the 2012 Nobel Prize in physiology or medicine.

*The discovery of iPS cells has since fundamentally transformed the developmental biology.

(Simple Presentation (by Garr Reynolds) を視聴する)

7 India, My Country (*New Crown* 2, L. 8)

学習目標：多言語社会であるインドについて、紙幣など例に学ぶ。

主な文法：受動態の復習。

*Here's a five rupee note. Rupee notes are used in India.

*You can see many languages on it. All these languages are spoken in India.

*The film was directed by a famous Indian actor.

発表活動：夏休みの自由課題として出したもの (英語関係の何か (英語に関する日本語の本、学習者向けの英字新聞の記事を読む、自分で読めるレベルの英語で書かれた物語を読む …etc) について発表する。

冬課題 *Sherlock Holmes: Short Stories* (Oxford Univ. Press: Bookworms, Stage 2)) 中の "The Speckled Band" を読み、Exercise を解いてくる。

中2・3学期

TT: *Sherlock Holmes*: 第1話 The Speckled Band (冬課題の復習)

学習目標：ホームズ物の中でも一番有名な作品を英語で読む。

*活動としてはCDを聞かせながら、サマリーの穴埋め確認。

8 Konrad Lorenz (旧版 *Sunshine English* 2 のある課を改編したもの)

主な文法：現在完了形の復習。

*I've studied animals since I was a boy.

*Have you ever read *King Solomon's Ring*?

*Have you read the book yet? - Yes, I've already read it.

TT: The Wisest Man in the World (*Sunshine English* 3, Extensive Reading 2)

学習目標：Lorenz の著書のタイトルが *King Solomon's Ring* であることから、その由来である King Solomon について読む。

9 The House That Jack Built (*Nursery Rhyme* より、早口言葉)

学習目標：有名な早口言葉を通じて、関係代名詞 that の働きを口でまず覚えてしまう。

主な文法：関係代名詞の導入 (that)

*This is the cat that ate the malt that lay in the house that Jack built.

10 Mujina (Hearn's *Kwaidan* を改編) + Lafcadio Hearn (自主教材)

主な文法：関係代名詞 who, which

*The last man who saw the Mujina was an old man from Kyobashi quarter.

*Haiku is a short poem which has only 17 syllables.

発表活動：以下の 2 つを行う：

1) The house that Jack built を暗誦発表

2) My Favorite Writer (好きな作家とその著書に関係代名詞を用いて説明する)

中 3・1 学期

1 My Favorite Words (*New Crown* 3, L 1.)

学習目標：Pete Gray という野球選手について読み、自分の好きな言葉について発表。

主な文法：受動態、

*I was encouraged by Pete's words.

TT Lafcadio Hearn ~Yuki Onna (『ハーン短編集』成美堂の改編)

学習目標：TT 教材として、リスニング後に理解を深める。

2 Learning from Nature (*New Crown* 3, Let's Read 1)

学習目標：科学的な話題の英文を読む。

主な文法：現在完了形、

*Have you ever thought of flying like a bird? (経験)

*All living things have developed special ways of living. (継続)

TT Catch a Wave ~Nagashima and Matsui to Receive People's Honor Award

学習目標：TT 教材として、英文記事に慣れる。

3 *Wizard of Oz* (LL でのビデオ視聴)

学習目標：有名なファンタジーを視聴し、テーマ曲を覚え、仮定法の基礎を作る。

主な文法：仮定法

*If only I had a brain, I could unravel every riddle.

4 Sadako and the Thousand Paper Cranes (*New Crown* 3, L.4 の改編)

学習目標：広島原爆と平和教育について学ぶ。

主な文法：make ○ ~ (形・動) / It is ~ (for ○) to ... / call ○ ~

*The pictures of Hiroshima made me shocked.

*It is possible for me to get well.

*We called the atomic bomb "Little Boy."

○通常の授業と並行して週に 1 度 LL での授業あり。以下の通り：

Unit 14 Small Talk

Unit 15 Vacations

Unit 16 Apartment Living

Unit 17 Hopes and Plans : 希望を述べる表現のバリエーション : I hope ~ / I wish ~
Unit 18 The Weather

発表活動 : If I had a time machine, I would ... と仮定の希望を発表する。

夏課題 *Martin Luther King Jr.* (Penguin Readers, Level 3 (1200 words)) + 自由課題

中 3・2 学期

5 Martin Luther King: I have a dream (New Crown 3, L.6 の改編)

学習目標 : キング牧師の有名な演説から 50 周年に際して、その歴史と意義を学ぶ。

主な文法 : 関係代名詞の復習 that, who, which, 関係詞 what, 関係副詞 where

*He had a dream that is important for all of us.

*There were many things that African-Americans could not do.

*Mrs Parks was a black woman who always took the bus home from work.

TT Obama March On Washington Speech Delivered at Lincoln Memorial

学習目標 : キング牧師の発展学習として行う。

6 The Black Cat by E.A. Poe (Penguin Readers, Level 3 (1200 words) より改編)

学習目標 : 本格的なホラーものの短編を読む。

主な文法 : hear [see] ○ ~ing / too ~ to ... / ask ○ to ~ / with ○ ~

*I heard people outside shouting "Fire!"

*I am almost too afraid to name the object.

*They asked me to come with them.

*There was a cat standing on her head, with his red mouth wide open.

(英語で読後感を書く)

TT The Fall of the House of Usher (Oxford Bookworms, Stage 3 (1000 words) を読む。

7 Gregor Mendel – the Father of Genetics (自主教材)

学習目標 : 理科で「遺伝」について学ぶのとコラボして、英語でアプローチする。

主な文法 : 関係詞 what (復習) / 前文の内容を受ける which / make it ~ (形容詞) to ...

*Mendel was born in a small village in what was then Austria.

*Nobody took notice of it, which was a great pity.

*His new duties made it difficult for him to continue with his studies.

○通常の授業と並行して週に 1 度 LL での授業あり。以下の通り

Unit 19 Shopping (No.8)

Unit 20 Describing Things (No.12)

Unit 21 Directions (No.14)

Unit 22 People We Know (No.20)

Unit 23 Places (No.24)

Murder on the Orient Express の視聴

発表活動 : キング牧師スピーチの一部暗誦

冬課題 : *Romeo and Juliet* (MacMillan Readers, Level 4 (1400 words))

中 3・3 学期

- 8 William Shakespeare～*Romeo and Juliet* の復習 (LL と連動して)
学習目標：冬課題の復習をかねて、有名な戯曲を、ビデオ視聴とともに学ぶ。
散文と韻文の違いについて言及
主な文法：これまでの文法のまとめ、同時進行の表現、直接話法と間接話法
*Here she comes now, looking very happy.
* Juliet said to Romeo, "I'll be waiting for you forever."
→Juliet told Romeo that she would be waiting for him forever.

TT Prologue の一部暗誦を行う

- 9 Malala's Speech at the United Nations (LL と連動して)
学習目標：子供の人権などについて、マララのスピーチを通して学ぶ。
主な文法：特になし。有用表現をあげる。
*It is a great honour to be here with you tonight.
* I don't know where to begin my speech.

TT Malala's Speech の一部暗誦

- 10 Galileo Galilei (『攻略！英語リスニング』2013 年 11 月号) (LL と連動して)
学習目標：「近代科学の父」と呼ばれる人物について学ぶ。
主な文法：特になし。有用表現をあげる。
*He discovered that the Milky Way was made up of countless stars.
*He was forced to take back his views.

○通常の授業と並行して週に 1 度 LL での授業あり。以下の通り：

Unit 24 Health

*3 学期は、LL 教材は 1 課のみ。残りは通常授業関係の you-tube などの視聴。

発表活動：以下のうち一つを選んで行う。

- 1 The most interesting story [lesson] of English for the past three years
What is the story? What is the outline? Why is it most interesting?
- 2 Which school event impressed you most in your junior high school days?
What is the event? What did you do in the event? Why impressed you most?
- 3 Recitation of the prologue of *Romeo and Juliet* + comments of the play
- 4 Play one scene of *Romeo and Juliet*, ex balcony scene, fighting scene etc
(2-3 人で組んでやることも可だが、その場合、順番の関係もあるので、事前に申し出ること)

☆高校3年間で扱った教材・文法項目 (65期)

高1・1学期

- 1 The Wright Brothers / Florence Nightingale (*Enjoy Simple English* (NHK 出版))
学習目標：平易な文章にて Oral Introduction の手法に慣れる (特に高入生)。
主な文法：中学の文法の復習(V to do、V ~ing、受動態)
*They wanted to fly in the air like birds some day.
*The airplane was named after themselves – the Wright Flyer.
*Her parents didn't want her to become a nurse.
- 2 Railroad Man (*Bob Greene's Eye for America* (南雲堂) 中の1編)
学習目標：高校の内容らしい少し余韻の残る作品に触れる (結末をどう味うか)。
主な文法：make /let/have + O + C(不定詞)、may have + 過去分詞、with ○ ~
*He made the passengers feel special.
*He may have been just the man behind the bar.
*With the government running the railroad, there was not the same feeling now.
- 3 Beowulf (Black Cat 社：Pre-intermediate –イラスト、CD、設問ともに良い)
学習目標：北欧の英雄譚を味わい、あわせて英語のルーツもたどる。
主な文法：不定詞・完了形の復習、仮定法の導入、同時進行を示す分詞[分詞構文]
*I now think of you as if you were my son.
*I wish you could have seen his body here in the Hall.
*Now the watchman left them, saying he had to go back.
- 4 Forests for the Future (*Unicorn English Communication 1, L.4*)
学習目標：環境問題 (社会的・科学的内容) を考える。
主な文法：関係代名詞、関係副詞、関係代名詞 what
*Baobabs have thick bark that allows them to store water in their trunks.
*It is a country where 60 percent of the population lives on less than \$1.00 per day.
*What we are doing now is like stepping lightly on the brakes of a speeding car.
発表活動：①Baobab tree について、なぜ倒れたのか絵を見ながら説明する
②1学期に扱った題材の中で気に入ったもの、その理由、プラスアルファの情報などの説明。
(いずれか一つを選択)
夏課題：The Body by Stephen King (Penguin Readers, Stage 5
Upper-Intermediate (2300 words))

高1・2学期

- 5 El Sistema: The Miracle of Music (*Unicorn English Communication 1, L.6*)
学習目標：社会問題を考える(この課は教育実習生が担当)。
主な文法：過去完了形、SVOC(~ing / 過去分詞)、help O +V
*Within a year the number of members had increased to 100.
*He found his life transformed by the instrument.
*My elder brother helped me finish my homework.
(課題英作文：My Turning Point 数名発表)
- 6 夏課題 The Body の復習

学習目標：比較的長い小説を読み、DVD 版と内容を比較する。

主な文法：with ○ ～(復習)、分詞構文(復習)、過去の習慣の would

*I went to the market, with coins jumping in my pocket.

*Behind me, I could hear Chopper coming, shaking the earth.

*I would often go fishing there.

(ビデオ視聴をし、穴埋めサマリーによって内容的なまとめも行った。また *Stand by Me* と *The Body* の異なる点を英語でまとめさせた)

7 Medusa / Perseus and Andromeda (成美堂：『ギリシャ神話』中の2編)

学習目標：ギリシャ神話に親しむ。

主な文法：with ○ ～(復習)、繰返しを避ける that

*She was chained naked to the rock, with her only covering her long blond hair.

*Cassiopeia dared to compare her beauty with that of sea nymphs.

(発展学習として Ovid's *Metamorphoses* (英訳版)の一部と比較。韻文に慣れる)

8 Why Are You Sleepy? (*Unicorn English Communication* 1, L.7)

学習目標：科学的英文を、図表と関連付けながら読む。

主な文法：仮定法過去、It is 形容詞 that ～、助動詞 have+過去分詞

*If all the mallards slept deeply, they would fall prey to their predators.

*It's now clear that one purpose of Non-REM sleep is to help us remember what's important.

*By the time they wake up, they must have stored important memories in their brain.

(*Dreamland* ～Adventures in the Strange Science of sleep を supplementary reading として読んだ)

発表活動：①El Sistema をはじめた Dr. Abreu の考え方をまとめ、意見を述べる。

②ギリシャ神話の別の話の紹介など、うんちくを披露する。

③Why are you sleepy? の内容の流れをイラストを用いてプレゼンする。(1つ選択)

冬課題：村上春樹の短編「かえる君、東京を救う」の英訳版 *Super-frog Saves Tokyo* (NHK 出版)を読み、内容理解、英訳での表現上の工夫をレポートにまとめる。

高1・3学期

9 Super-frog Saves Tokyo (by Haruki Murakami) (NHK 出版・沼野充義著)

学習目標：日本語・英語の表現法の比較をし、味わう。

主な文法：中間話法・描出話法、前置詞+whom/which、関係詞の非制限用法

*I wondered, who should pay for this?

*He was worried about the walls of his cheap apartment house in which he lived.

*Katagiri stared long and hard at Frog, who sat there now wrapped in the thick cloak of sleep.

(作品読了後、Haruki Murakami Abroad (*Unicorn English Communication* 1, L.8)を速読的に扱った)

10 Thomas Jefferson (*People Who Made Our Country Great* (北星堂)中の1編)

The Declaration of Independence (『アメリカ精神の英語』(筑摩書房)内に掲載)

学習目標：Jefferson と独立宣言を書いた経緯を学び、実際に一部暗唱をする。

(参考：The Declaration of Independence and The Constitution of the United States

(Bantam Books), A Reading of the Declaration of Independence (You-Tube))

主な文法：同族目的語、過去完了、the +比較級、the + 比較級、

*As a boy, Tom led a happy life.

*The government in England asked for things that it had not asked them before.

*The more he thought about independence, the more he believed that it must come.

(米国独立宣言の主要部分を読み込み、一部を暗唱)

発表活動：①Super-frog Saves Tokyo について英語で感想を述べる

②Haruki Murakami のほかのおすすめの作品の紹介

③The Declaration of Independence の初めの 10 行を暗唱 (いずれか一つ)

高 2・1 学期

- 1 Reading Poetry: At Grass by P. Larkin (*Unicorn English Communication 2*, L.12)

学習目標：英詩の技法について rhyme, alliteration, personification, iambus など

主な文法：be to ～(未来表現)、to 不定詞+前置詞、部分否定など

* I'm not going into details about English prosody, which you are to learn in the future.

* The horses seem to have nothing to complain of.

* I believe it is not always a waste of time to read poetry.

- 2 Winnie-the-Pooh by A.A. Milne (Methuen Children's Books 中の第 5 章まで)

学習目標：児童文学を読み、引き続き英詩・ナンセンス詩・言葉遊びに親しむ。

主な文法：must/may have + 過去分詞 (復習)、仮定法 (復習)、完了不定詞など

*You must have left it somewhere.

*Suppose you wanted to catch me, how would you do it?

*I don't seem to have felt how for a long time.

- 3 What Is Uniquely Human? (*Unicorn English Communication 2*, L.10)

学習目標：科学的英文を読み、あわせてプレゼンテーションの技法を学ぶ。

主な文法：This is how ～、If it were not for ～、時の表現

* Whether we like it or not, this is how it goes.

* If it were not for the close and caring mother-infant bond, young chimpanzees would not learn the things they need to survive.

*They disappear as soon as they appear.

(この課の著者である京都大学松沢教授の英語による講義(Lecture (TED x Youth@Kyoto) を You-Tube にて視聴し、プレゼンの技法を学んだ)

- 4 The Tale of Genji by Lady Murasaki (translated by Arthur Waley (Doubleday 社))

学習目標：日本の古典を英訳で味わう。

主な文法：仮定法のまとめ(過去完了、その他)、複雑な構文

* It would have helped matters greatly if there had been some influential guardian to busy himself on the child's behalf.

*

(Begin Japanology (NHK ワールド) の *The Tale of Genji* 特集を視聴し、源氏物語の概要を聴き取る)

発表活動：1 学期の 4 課に関連したテーマ (My favorite poem 何か詩を紹介する /

Winnie-the-Pooh Chapter6 以降の話を取り上げてコメント / Humans/chimpanzees な

どについて / The Tale of Genji について etc) についてスピーチする。

夏課題 *New Tales from Shakespeare* (成美堂 : Green という児童作家による翻案)

高 2・2 学期

5 William Shakespeare ~The Merchant of Venice (成美堂の夏課題の復習 1)

学習目標 : シェイクスピアの戯曲に親しむ。(ビデオ視聴、(DVD あり))

主な文法 : 仮定法の復習、大過去、should [might] have +過去分詞など

*Antonio loved Bassanio as if he were his son.

*Scarcely had Bassanio and Gratiano set out for Venice, when Portia began to wonder how she could help to save Antonio.

*Bassanio should have returned to Venice a rich man long before Antonio's debt to Shylock was due.

(有名な場面を原文で読み、一部暗誦 (Shylock のセリフ、Portia の“Mercy” Speech))

6 Global Water Issues (*Unicorn English Communication 2*, L. 8)

学習目標 : 水問題についての英文を読み、それに基づいて自分の意見を書く

主な文法 : what の慣用表現、No matter how~などの譲歩表現、wh-ever など

*Our planet is the “Blue Planet,” and water flows in what can be called a closed hydrological cycle.

*What is more, the water demands for keeping ecosystem healthy should be met.

*No matter how rich our planet is in water, only about 2.5% is fresh water.

*That is why there are millions of artificial lakes and ponds made wherever possible.

(発展学習として Virtual Water and Sustainability (You-Tube)の聴き取り、Water Issue についての意見を書く)

7 William Shakespeare / Hamlet (成美堂の夏課題の復習 2)

学習目標 : シェイクスピアの戯曲に親しむ 2 (ビデオ視聴、(DVD あり))

*こちらは、ビデオ視聴とプリントによる内容理解にとどめる。

8 The Power of Choosing (*Unicorn English Communication 2*, L. 7)

学習目標 : 「選択」について読み、それに基づいて、自分の体験について述べる。

主な文法 : 比較の表現、名詞構文

* Even today, Steven Callahan is one of the few people to have lasted no less than a month at sea on his own.

* How much choice we technically have is far less important than how much choice we feel we have

*More research at a nursing home also demonstrates the importance of choice.

(著者の Sheena Iyengar のプレゼン (NHK 白熱教室) を視聴し、自分の体験を書く)

発表活動 : 2 学期に扱った題材について 1 つ選び以下のことを発表する :

① Shylock's “Has not a Jew eyes?” speech / Portia's “Mercy” speech いずれかの暗誦

② Water crisis について英語で意見を述べる

③ How your life has been affected by fate, chance and choice ? について

冬課題 Teach Yourself Italian (by Jhumpa Lahiri) *The New Yorker* 中のエッセイ

高2・3学期

- 9 The Civil War (『アメリカの小学生が学ぶ歴史教科書』(The Japan Times)より改編)

学習目標：10,11 の題材を扱うための背景知識として導入する。

特に新たな文法項目なし

(Causes of the American Civil War など You-tube の音声教材を使用)

- 10 The Coup de Grace (by Ambrose Bierce) (『ビース短編集』研究社小英文叢書より)

学習目標：南北戦争を背景にした本格的な短編。描写が凝っており、高2の最後の力試しとして扱う。

主な文法：分詞構文、仮定法(いずれも復習) *分詞構文が多用されており、文章の効果としての分詞構文が納得できた、という生徒の感想あり。

*Our commander stood looking ahead with his hand shading his eyes.

*One pig stood with its back to him, its shoulders sharply elevated.

*Not knowing where to go, the officer stood leaning against a tree.

*But for the restraining influence of mutual relation to Caffal, these two patriots would have endeavored to deprive their country of each other's services.

(発展課題として Owl Creek Bridge(A. Bierce のもう 1 つの傑作)を読む)

- 11 Abraham Lincoln (*People Who Made Our Country Great* (北星堂) 中の 1 編)

Gettysburg Address (『アメリカ精神の英語』(筑摩書房)の注釈を利用)

(参考：Lincoln at Gettysburg (by Garry Wills: A Touchstone Book)

学習目標：リンカンの生涯を踏まえ、ゲティスバーグ演説を理解する。

主な文法：suggest [insist] that ...(should) 、さまざまな that の用法

*Lincoln's advisors suggested that the proclamation should be made after a Northern victory.

* We have come to dedicate a portion of that field, as a final resting place for those who here gave their lives that that nation might live.

*It is altogether fitting and proper that we should do this.

(発展学習として *Abraham Lincoln* by James M. McPherson(Oxford 出版)の一部を読解。

また、The Gettysburg Address は You-Tube 上の複数の動画を使用、暗誦)

例) Gettysburg Address from the movie "Saving Lincoln"

発表活動：以下のうちから一つを発表：

①Gettysburg Address 暗誦

②The most terrible experience I've had in my life

③About learning a foreign language (冬課題との関連で)

高校3年生：COM 英語 III のカリキュラム

- * 高校3年生は、選択教科であり、受験を意識して、原則として1時間完結で様々な文章を読んだ。従って、毎回読んだ教材を一々はあげない。週3時間あるので、それを3つの異なった活動に充てた。そこで扱ったいくつかの教材を以下にあげる。

高3・1学期

以下の3つの柱で様々な教材を扱う。

- 1 500語程度の中文(主に過去の入試問題から)
- 2 リスニング+速読

3 1000語を超える長文を読む（短篇や一般紙の長めの記事など）

具体的な教材例（R=reading）（L=listening）

- 1) William Trevor の中編小説(*Felicia's Journey*) 冒頭 (R)
- 2) Magna Carta (『攻略！英語リスニング』2016年4月号 NHK 出版) (L + R)
- 3) The Flag of the United Kingdom (by Colin Joyce, *Let's England*) (R)
- 4) Short Short を読む～Knock (by Fredric Brown) (R)
- 5) Fetal Origins (TED Talks 入試問題) (L + R)
- 6) Obama's Speech at Hiroshima (from *The Japan Times*, You-Tube) (L + R)
- 7) Six Degrees: *The Science by a Connected Age* (by Duncan Watts 入試問題) (R)
- 8) 短編～O'Malley and Schwarz (by Patrick McGrath, *The Universe of English II*) (R)
- 9) Edwin Reischauer's Life (入試問題) (L + R)
- 10) My Life between Japan and America (Edwin O. Reischauer の自伝の一部) (R)

発表活動：今学期扱った文章・話題のうち1つについて1分程度、英文要約・コメント

高3・2学期

以下の3つの柱で様々な教材を扱う。

- 1 英米の雑誌の論説文を読む
- 2 リスニング+速読（あとに述べる教材から）
- 3 短篇・歴史的なスピーチを味わう

具体的な教材例

- 1) Can a Good Doctor be Honest? (Placebo effect 『大人のための英語教科書』（山本史郎他著・IBC パブリッシング社）(L + R)
- 2) What Happened to the Ice Bucket Challenge? (from *The New Yorker* 7/16/16) (R)
*Placebo effect, Ice Bucket Challenge のいずれかについて英文で意見を書く課題
- 3) Brave New Worlds (from *The Economist* 8/27/16) (R)
- 4) Shakespeare's "First Folio" found in Scotland (『ラジオ英会話』8月号) (L + R)
- 5) The Human Brain (入試問題) (R)
- 6) The Rosetta Stone (『大人のための英語教科書』（山本史郎他著・IBC パブリッシング社）(L + R)
- 7) Why Do We Laugh? (by V.S. Ramachandran et al. from *The Expanding Universe of English II*) (R)
- 8) Donald Trump's victory speech (from The news on the Internet) (L + R)
- 9) Crystal ball shattered as news media misses what's plain in sight (by Jim Rutenberg, from *The New York Times* 11/10/16) (R)
- 10) "I Have a Dream" (Martin Luther King Jr. の歴史的スピーチ) (L + R + S)

発表活動：キング牧師のスピーチの一部暗唱